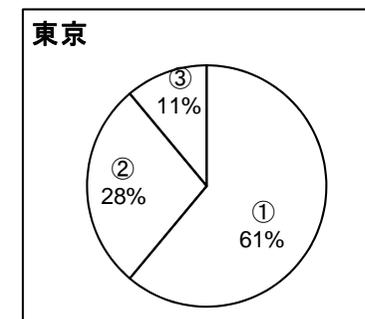


セミナーへのご参加、そしてアンケートへのご協力、誠にありがとうございました。

Q1. 「国内債券・外国債券・国内株式・外国株式」という四資産分類は、次のどちらの理論的順序で行われるべきとお考えでしょうか。どちらか近いほうをお選びください。

| | 東京 | 合計 |
|-------------------------------------|----|----|
| ① まず、債券と株式に二分割し、次いで、それぞれを国内と外国に分ける。 | 11 | 11 |
| ② まず、国内と外国に二分割し、次いで、それぞれを債券と株式に分ける。 | 5 | 5 |
| ③ 無回答 | 2 | 2 |
| 合計 | 18 | 18 |



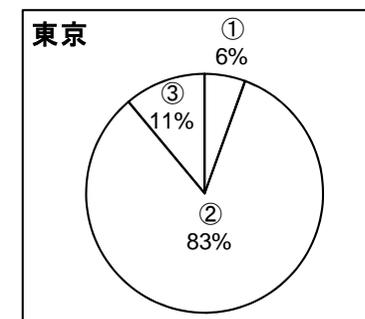
Q2. 上記のように考える理由を教えてください。

| ①と回答した方の理由 |
|---|
| ・ 経済・金融・証券市場のグローバルな一体化、連動性が高まって国内外に分ける理由が乏しくなっている一方で、企業の成長性を取りにいく株式投資、確実なインカムを担う債券という資産クラス毎の特性の違いは、健在であり、グローバルに通用するものとするため。 |
| ・ 最初に着目するのは資産ごとの特性。地政学的なリスク、自然災害のリスクが大きいときは、地域を先に選択することもあり得る。 |
| ・ グローバル化の進展 |
| ・ 債券と株式の仕組みが異なり、その様に分けた方が分かりやすいと思うから。 |
| ・ 経営のグローバル化から。リスク・リターンのお考えから。 |
| ・ ストラクチャーを優先して分類している。 |
| ・ 国内と外国の分類は選択の結果では？ |
| ・ まず初めに、安全資産とリスク資産に分ける。 |
| ②と回答した方の理由 |
| ・ 為替リスク・カントリーリスクの特性から。 |
| ・ まず投資対象を選択する。 |

セミナーへのご参加、そしてアンケートへのご協力、誠にありがとうございました。

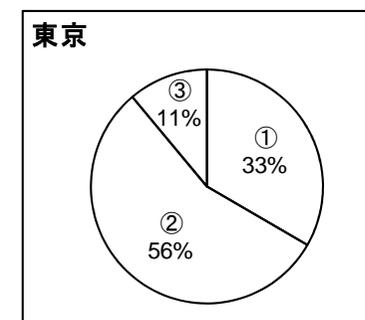
Q3. 仮にオルタナティブというような自由な枠を設けずに、全ての資産を「債券・外国債券・株式・外国株式」という四資産分類に振り分けるとしたら、例えば、国内株式のロングショート戦略は、どう分類されるでしょうか。どちらか近いほうをお選びください。

| | 東京 | 合計 |
|--------------------|----|----|
| ① 債券代替として、国内債券 | 1 | 1 |
| ② 株式には違いがないので、国内株式 | 15 | 15 |
| ③ 無回答 | 2 | 2 |
| 合計 | 18 | 18 |



Q4. 同様に、為替をヘッジした外国債券は、どう分類されるでしょうか。どちらか近いほうをお選びください。

| | 東京 | 合計 |
|----------------------|----|----|
| ① 債券代替として、国内債券 | 6 | 6 |
| ② 外国債券には違いがないので、外国債券 | 10 | 10 |
| ③ 無回答 | 2 | 2 |
| 合計 | 18 | 18 |



Q5. 長期的資産配分の長期とは、どういう意味だとお考えでしょうか。どちらか近いほうをお選びください。

| | 東京 | 合計 |
|--|----|----|
| ① 一度決めた資産配分は長期間変えない (短期的には変えないので、結果的に不変) | 1 | 1 |
| ② 長期の視点で変えるべきときは変える (短期的に変える意図はなくとも、結果的に変動) | 15 | 15 |
| ③ 無回答 | 2 | 2 |
| 合計 | 18 | 18 |

